

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370600484		
法人名	社会福祉法人なごや平和福祉会		
事業所名	グループホームへいわ		
所在地	愛知県名古屋市中区平和2-2-36		
自己評価作成日	平成22年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370600484&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は人間性にも優れ、介護者として素晴らしい資質を持っている。また家族や協力医、地域の方々との協力も十分に得られているので、安心して入居者を支えることができ、入居者の皆さんはおしゃべりと笑顔がいっぱいあり、活気があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームへいわは、同法人が運営する居宅介護支援事業所・訪問介護・通所介護事業所と併設しているホームである。ホーム近隣には昔ながらの街並みが残っており、その中で利用者は天気の良い日に散歩に出かける等穏やかな日常を送っている。また、ホームは家族との連携を密にとっており、今回実施した家族アンケートでは、「職員の対応が良い」「いつでもホームに行きやすい」「馴染みやすい」等の意見が多く、ホームの取り組みの成果が現れる結果となった。また、医療面でも主治医・看護師である管理者が連携を取り合い緊急時の対応等迅速に行うことができるよう努めており、利用者・家族にとって非常に高い安心につながっている。今後もより一層の活動の充実とグループホームへいわを中心とした地域福祉への取り組みを期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践に向けて日々努力している。	管理者・職員はホームが掲げた理念を理解し、日々の支援で実現出来るように努めている。訪問調査当日も、利用者のいきいきとした表情・姿を見ることができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、敬老会などの行事に参加、地域の喫茶店、飲食店の利用、スーパー、コンビニへの買い物、散歩を通じ、地域の方々と話しをする機会が多くある。	日頃から地域に根ざした活動を行い、地域住民との関係構築に力を入れている。また、地域での行事等積極的に参加をし、ホームの取り組みの理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター主催の認知症の家族教室で実践報告をしたり、実習生の受け入れも積極的に行っている。また施設内の地域交流室で囲碁や太極拳、英会話、書道教室などが行われ、地域の方が利用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みを報告するだけでなく、入居者とおこしもの作り、散らし寿司作りをしたり、初詣、盆踊りにともに出掛け、意見を伺ったりしている。	定期的に運営推進会議を実施し、ホームの活動報告等を行い、ホームの活動の理解を深めている。また、参加者から意見・要望等収集しサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導、事業者説明会のほかには市町村担当者と連絡を密に取り、協力関係を築く取り組みはできていない。	市担当者と日頃から運営上の疑問点等を相談し、意見交換・情報交換を行い密接な関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないことが当たり前のこととして受け止め、安全確保に努めつつ、あんきな暮らしを支援している。	管理者は身体拘束排除の弊害を理解しており、排除のための取り組みを行っている。玄関の施錠等を含め、日々の支援の中でも身体拘束をしないケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待しないという意識を持っている。言葉、態度、接し方などで相手の気持ちを傷つけないよう、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学んでいるが、全職員が学ぶ機会を作って行きたい。必要に応じ、関係者と話し合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。また疑問点があればその都度、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	買い物や散歩、入浴時にゆっくり話す機会を設け、伺っている。また日常の言葉や表情から推察したり、家族を通して伺ったことをその都度話し合い、希望に添うよう努めている。	日常生活の中での何気ない一言や、家族来所時に話す機会を設け、意見・要望の把握に努めている。受け止めた希望・要望は利用者ごとに対応を行っており、アンケートでの満足度も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と話す機会を多く持ち、職員の意見や提案を尊重し、反映するよう努めている。	管理者は風通しの良い職場運営に努めており、会議・個別面談はもとより日常的にも職員が然に意見が言える事業所風土を作っている。出された意見や提案は積極的に運営に反映させている。その結果職員のモチベーションは高くサービスレベルの向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は昼食をともにしたり、散歩に付き添うなどで現場の状況を把握したり、職場環境、条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に可能な限り、参加できるよう努めている。研修報告を徹底し、全職員が共有できる環境を作っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や交流会に可能な限り参加するよう努めているが、他の事業所との交流は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学、面談時に十分に時間をとり、不安なく、納得して入居していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合う機会を十分にとり、安心して利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当に必要なサービスは何かを見極め、丁寧に相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添って過ごすことにより、入居者から教えていただくこともたくさんあります。職員、入居者同士、お互いを必要とする良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が何事にも積極的に協力して下さり、一緒に支えていく関係を築くことができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が来所されたり、手紙のやりとりをしたり、馴染みの場所に家族や職員と出かけたりにしている。	職員は利用者一人ひとりと何気ない会話の中から思いや希望を引き出している。外出等希望に沿った支援を行っている。また、ホームでは実現が難しいことでも、家族との協力で利用者の様々な要望に応えることができる体制づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係を見極めて、席の配置、外出時の組み合わせなどを配慮し、心地よい時間を過ごせるよう努めている。お互いに支えあう関係もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者、家族の意思を尊重し、可能な限り関わりを継続している。退居された方の家族の紹介で入居された方もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望、意向にそって生活できるよう、努力している。	日々の何気ない言葉から、利用者の希望・要望の把握に努め、実施に向け努めている。また、温かみのある日常支援を行い利用者の尊厳を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報をファイルに記載し、全職員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の暮らしを個人記録ファイルに記載し、申し送りや伝え、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度アセスメント、モニタリングを実施、半年に1度の家族面談はもとより、職員間、本人、家族と適宜話し合いを行い、介護計画に活かしている。	定期的に行われるモニタリングにより介護方針が検討されており、利用者の状態が変化した時にはその都度介護計画が検討され、常に適切な支援が提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録ファイルにわかりやすく記載して情報を共有し、様々なことに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス合同のヨガ、太極拳、詩吟等に参加したり、行事の時や気分変えた昼食で利用する配食弁当、施設内で行われる習字教室の参加等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校からの運動会や学芸会等の招待、地域役員の協力で盆踊り、節分祭、敬老会への参加ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くのクリニックに依頼し、定期的な往診、緊急時の往診を受けている。他の医療機関に受診される時は家族に本人の状態を話したり、主治医に文書で報告する等連携に努めている。また必要に応じ、受診の付き添いや家族とも同行している。	定期にて往診を実施し、健康管理を行っている。また、協力医療機関以外での受診も可能としており、家族協力の下、利用者に対し適切な医療支援が提供できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、入居者の健康管理に努めている。また必要に応じ、デイサービスの看護師の協力も得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に利用者の情報を医療機関に伝え、入院時に利用者の情報を医療機関に伝えている。また可能な限り医療機関を訪れ、医師、看護師、家族と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人や家族の意向を伺い、ホームとしてできる限りの支援をし、かかりつけ医の協力も得られている。またミーティングや日々の話し合いで共有できている。	本人家族の意見を尊重し、看護師である管理者がホームとして出来ること出来ないこと等話し合いを行い、最大限の支援を行い、利用者家族の安心へとつながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に看護師や医師の指示を受け、適切な対応ができているが、全職員が応急手当、初期対応が適切に行えるよう定期的な訓練をする必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練は年2回行っており緊急連絡網もあるが、夜間を想定した訓練や話し合いが不十分なため、災害時の避難、救護等に不安がある。	緊急時の対応マニュアル・連絡体制の確立等の整備をしている。また、定期的に防災訓練を実施し、非常災害時の対応を確認している。	今後も継続的に防災訓練を実施していただき、非常災害時には迅速に利用者を避難・誘導できるように職員の意識の統一を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の自尊心を傷つけないよう対応し、プライバシーを損ねないよう十分配慮している。	スタッフは一人ひとりの生活歴・性格・特性を理解し、自尊心やプライバシーを損ねることのないケアを心掛けている。訪問調査の視察時では、スタッフが利用者に対し落ち着いた姿勢で傾聴・受容し、優しく対応していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	みなさんとも自由に過ごされています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活としてのホームの日常はあり、一人ひとりの希望には必ずしもそうことはできないが、できる限り希望にそってよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋、美容院、移動理美容の選択、髪型、パーマ、髪染め等本人の希望を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものをメニューに取り入れたり、可能な限り一緒に食事の準備、片付けを行っている。また入居者と職員と一緒に食事することで、見守り、声かけがしやすく、好みも把握できている。	調理、片付け、買い物、配膳など利用者と職員と一緒に自然な流れで楽しみながら行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲み、利用者が「食」を楽しむことができるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取状況を記録し、申し送りにより把握し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯洗浄の実施、起床時、寝る前の歯磨き、義歯洗浄の介助等個人に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりにあわせた排泄の声かけ、誘導を適時、実施している。失敗時には速やかにさりげなく対応し、清潔と快適を保てるよう支援している。	日々の生活より排泄パターンを把握し、職員は個々にさりげない声掛け誘導・介助支援を行っている。また、生活リズムや状態等に变化が見られた場合は、現状把握・対応に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事、適量の水分を摂り、また体操、散歩、日常生活でよく動いている。必要時、医師に相談し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施、一人ひとりの状況に合わせた入浴介助、体調不良等で入浴できない方には、清拭、足浴を行っている。すべて希望の時間帯に入浴することは難しいが、テレビやレクなど本人の楽しみを奪わず、入浴できるよう支援している。	入浴の時間や回数等は入居者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴の可否については体調を勘案しその都度確認したうえで決定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望にあわせ対応している。皆さん自由に行ってみえます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服薬している薬について把握しており、適切な服薬支援ができている。薬の追加や変更時には記録し、申し送りの徹底により、全職員が把握し、入居者の状態変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと、好きなことを把握し、楽しく過ごせるよう支援している。それぞれの役割を自分の仕事として、習慣として行って下さっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	鶴舞公園や名城公園に花見にでかけたり、水族館、大須祭りなど様々なところででかけている。毎日の買い物や個人の日用品の買い物も天候や体調を考慮し、行っている。	日常的に外出の機会を設け、利用者の希望要望に応じて、散歩や買い物等の外出が行われており、利用者・家族の満足につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、買い物等で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や職員の働きかけにより、電話をかけたり、手紙のやりとりができるよう支援している。携帯電話を持っている方の着信を本人と共に確認し、電話をかけるなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに季節の花を植えたり、居間やトイレ、居室に入居者と一緒に作った作品を飾ったりしている。	利用者が集う共有空間は、季節感が感じられるように装飾等工夫している。訪問調査当日も利用者のリラックスした様子を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	5階、6階にソファを置き、エレベータを待ちながら入居者同士でおしゃべりをしたり、ベランダのベンチに座って外をながめたり、日向ぼっこをして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの希望により、使い慣れたもの、なじみのもの、本人や家族の写真や作品などで、それぞれに安全で、居心地のよい空間作りをしていただいている。	家具の持ち込み等は自由であり、使い慣れた家具や趣味の道具を配置する等居室一つ一つに個性が感じられた。利用者本人が生活しやすい環境となるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路の確保、手すりの設置、杖、押し車の使用、必要に応じて見守りや介助を行い、安全に配慮し、また一人ひとりに合わせ、整理整頓を行い、自由に動ける空間を作っている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	日頃から地域に根ざした活動を行い、地域住民との関係構築に力を入れている。また、地域での行事等積極的に参加をし、ホームの取り組みの理解を深めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	定期的に運営推進会議を実施し、ホームの活動報告等を行い、ホームの活動の理解を深めている。また、参加者から意見・要望等収集しサービスの質の向上に努めている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市担当者や日頃から運営上の疑問点等を相談し、意見交換・情報交換を行い密接な関係の構築に努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	日常生活の中での何気ない一言や、家族来所時に話す機会を設け、意見・要望の把握に努めている。受け止めた希望・要望は利用者ごとに対応を行っており、アンケートでの満足度も高い。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示)
3. 運営推進会議を活かした取組み	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
	(例示)
4. 市町村との連携	① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示)
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームへいわは、同法人が運営する居宅介護支援事業所・訪問介護・通所介護事業所と併設しているホームである。ホーム近隣には昔ながらの街並みが残っており、その中で利用者は天気の良い日に散歩に出かける等穏やかな日常を送っている。また、ホームは家族との連携を密にとっており、今回実施した家族アンケートでは、「職員の対応が良い」「いつでもホームに行きやすい」「馴染みやすい」等の意見が多く、ホームの取り組みの成果が現れる結果となった。また、医療面でも主治医・看護師である管理者が連携を取り合い緊急時の対応等迅速に行うことができるよう努めており、利用者・家族にとって非常に高い安心につながっている。今後もより一層の活動の充実とグループホームへいわを中心とした地域福祉への取り組みを期待するところである。